

早稲田大学インクルーシブ教育学会 ニュースレター

2021年（令和3年度）・NO.1

2021年度総会 高橋あつ子副会長挨拶

対面での研修が再開されるかと思っていたのですが、もうしばらくの辛抱と言うところです。しかし、オンラインの良さを生かして、全国各地からご参加いただいています。コロナ禍の不安な状況が続いている中で、いろいろなお子さんの繊細さに対応していく必要がある、そんな中だからこそなおさらに多様性に関心をもったインクルーシブ教育学会の学びと実践をさらに重ねていきたいと思っています。



記念講演 「Society5.0 を生きぬく力を育てる」

ソサイエティ5.0の社会や学校を構築していく今、様々な学校の課題を、ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びでどのように解決していくか、インクルーシブ教育学会の方向性を示す記念講演となりました。以下、講演会に参加した感想をまとめます。

ソサイエティ5.0の社会とは？ その中で必要とされる力とは？

ソサイエティ5.0と聞いてすぐに、学校教育の未来像を描ける人は、まだ多くはないのではないでしょうか。しかし、一人1台の端末と高速通信環境の整備をベースとしたGIGAスクール構想は、スマート社会を生きていく子供たちのためにすでに始まっています。

ソサイエティ5.0では、現実社会のあらゆるものがインターネットとつながり、人工知能AIの活用がさらに進んでいきます。人の考え方も在り方も大きく変化していく中で、何でもAIにやってもら「受け身」の人間にならないためには、主体的・対話的・深い学びの教育実践やプログラミング教育を通して、課題解決能力や創造的思考力を育てていくこと求められます。

その基盤となるのは、結局のところ制御機能と実行機能、前頭葉を鍛えることにあると本田先生は話されました。小・中学校の義務教育では、基礎学力や素質（自己肯定感や挑戦する姿勢、忍耐力や協同する力等）そして、ICTを正しく活用する情報リテラシー教育が、今まで以上に重要になってくると感じました。

今ある課題（学力・不登校・キャリア）はスマートシティで解決できるのか？

コロナ禍の中で、まだまだ先になるだろうと思っていたGIGAスクール構想が一気に歩みを進めました。「変革」は、インクルーシブな学校作りを願う現場の実践からというより、いつも外部からの大きな状況の変化に対応せざる負えない形で押し寄せてくるように思います。

本田先生は、学力の課題（課題解決能力・科学的リテラシー・読解力）、適応の課題（いじめ・不登校・子どもの自殺）・進路の課題（キャリア教育・離職率）と言う3つのキーワードで、多くのデータから日本の現状をお話しされました。その解決方法として、エストニアやフィンランド、オランダ、オーストラリア、アメリカのコロンビア大学など諸学国の先進的な例を挙げて、日本の進むべき方向性を示されました。

お話しの中で、公教育の100%電子化が推進され、欧州第1位の学力を誇るエストニアの紹介がありました。そのエストニアを視察し教員研修を行っている都内S区では、公立小・中学校に数年前から一人1台タブレットが配布され、ICT活用が推進されています。

【講師】 本学会会長
早稲田大学 教育学部教授

本田 恵子氏



高橋あつ子副会長によると、本田先生は、アスリートに例えると、100M走のスピードでフルマラソンを走りながら10種競技をこなすかのようなスーパープロフェッサーであり、形容すると「広い・深い・速い・鋭い」そして「あったかい」と言う言葉がぴったり、とご紹介でした。オカメインコもおしゃべりするようになる、育て上手な素敵な先生です。

それによって、特別支援教育の面では、作文やレポート課題にタブレットを使えることやアクセスリーディングを役立てることができていました。しかし、現場の実感としては、旧来の授業の中にタブレットを使える場面を探すと云ったあまりワクワク感のない実態もあったように思います。

状況が大きく変わったと感じたのは、コロナ禍に対応した Teams の導入でした。これにより、クラスチームへの学習予定や課題の投稿が日常的になり、欠席生徒・不登校生徒の希望者には授業配信を行うようになりました。また、One note の活用により、学習のまとめや発表の時間短縮を図り、学習内容を深める時間を増やしたり、各専門委員会でも手で書く作業から解放され、話し合いに集中できる活動に変化しました。デジタル教材の活用も格段に進みました。今後、学習者用デジタル教科書の導入により、さらに UDL カリキュラムの障壁が減り、多様な生徒が学習にアクセスしやすい環境が整っていくように思います。

ソサイエティ5.0 に向かい、GIGA スクール構想で「多様な子どもを、誰一人取り残すことのない学びの個別最適化」を目指す今だからこそ、インクルーシブ教育の定義である「すべての子どもたちがお互いの個性を理解し合って共に学ぶ」ことを目的に、多様性や UDL を切り口にして研究・研修を続ける本学会での学びの意義は大きいと改めて感じます。

インクルーシブ教育実現のために！

インクルーシブ教育の実現のためには、「共生は、健常者、障害者ともに利益がある」という理念が理解され、①法律や制度が整備されていること。②ニーズアセスメントが明確であること。③本人・保護者の障害受容が進んでいること。④学校環境整備ができていないこと。⑤教員の資質が向上すること。⑥クラスの生徒の障害理解。⑦学校・地域でのバックアップ体制があることが大事である。特に、教員養成の点で、直接支援ができる、子どもに合った IEP を立てられる、環境・カリキュラムの調整ができる、生徒の能力に適した期待ができる、家庭と連携した取り組みができる、そういったインクルーシブ教育のスペシャリストを育成することも重要になると、本田先生は仰いました。そして最後に「学ぶことは山ほどある！」と、励ましの言葉をいただきました。

<未来の社会・未来の学校、そして UDL についての動画資料>

「Inclusive Practices in Your Classroom」 https://www.youtube.com/watch?v=oosRVmZa_zg&t=6s

「20××年の教育」 <https://www.youtube.com/watch?v=n3ZGAAB1VmA>

「20×× in Society5.0 ～デジタルで創る私たちの未来」 <https://www.youtube.com/watch?v=xQnnAih8KIo>



◇ 今回、本田先生の「ソサイエティ 5.0 を生き抜く力を育てる」の講演を聞いて、「around the corner」と言う言葉を思いつかれました。私たちはチャレンジ精神をもって変化の時代に挑んでいくことになりそうです。大変と感ずるか？エキサイティングと感ずるか？インクルーシブ教育学会では、ワクワクする未来を描きながら、皆様と一緒にワクワクする学びを重ねていきたいと思ひます。

ご参加の皆様からの感想（抜粋）

◇ Society5.0 を生き抜くために必要なスキル、子どもたちのスキル、そしてそれを実現するための大人のスキルと考え方…食い入るように講演を聞かせていただきました。課題解決的な思考力を育てるために、私自身なにができるか、そこに向かって何を学ぶべきか、今一度考えようと思ひます。

◇ 「学習の遅れが不登校につながる」だからこそ、個々にあった学習方法が選べる環境づくりが必要というお話が一番、心に残りました。とにかく、不登校の生徒を減らしたいです。

◇ コロナ禍で GIGA スクール構想が進みましたが、超スマート社会を見据えた教育が出来ている実感はありません。講演を聞いて、これから向かう方向を意識することができました。

◇ 今回のテーマをインクルーシブの切り口でご講演いただきありがとうございます。内容を反芻し、養護教諭として子どもたちに今後どうかかわって行くか、考え実践して行きたいと存じます。

◇ 日常を右往左往しながら過ごしておりますが、今日の講演会を拝聴して、少し遠い未来を思い描くことができました。世界の教育についてや国内における動向など、多角的多面的に俯瞰して考えるきっかけを与えていただき、少し閉塞感から自由になれた気がしています。

